



平成30年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年8月10日

上場会社名 株式会社イメージワン 上場取引所 東
 コード番号 2667 URL <http://www.imageone.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高田 康廣
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理部長 (氏名) 鶴飼 良一 (TEL) 03-6233-3410
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第3四半期の業績(平成29年10月1日～平成30年6月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第3四半期	942	—	△30	—	△46	—	△50	—
29年9月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
30年9月期第3四半期	△9.09		—					
29年9月期第3四半期	—		—					

(注) 当社は、平成29年9月期第3四半期は連結業績を開示しておりましたが、平成30年9月期第3四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、平成29年9月期第3四半期の経営成績(累計)及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年9月期第3四半期	1,727	1,373	79.3
29年9月期	1,386	838	60.4

(参考) 自己資本 30年9月期第3四半期 1,369百万円 29年9月期 836百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年9月期	—	0.00	—	—	—
30年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年9月期の業績予想(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,580	14.0	40	—	18	—	10	—	1.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

30年9月期3Q	6,291,100株	29年9月期	5,021,100株
----------	------------	--------	------------

② 期末自己株式数

30年9月期3Q	74,500株	29年9月期	74,500株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

30年9月期3Q	5,609,600株	29年9月期3Q	4,740,600株
----------	------------	----------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8
(企業結合等関係)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において、当社が判断したものであります。なお、当社は当第3四半期会計期間より四半期財務諸表を作成しており、前年同四半期は個別の経営成績を開示していませんでしたが、参考として前年同四半期の個別の経営成績との比較分析を記載しております。

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、底堅い企業収益や雇用環境の改善等を背景に、今後も緩やかな回復基調で推移している一方で、海外経済では政治・経済情勢の不確実性や金融変動の影響など、引き続き懸念される状況が続いております。

当社を取り巻く事業環境といたしましては、主要分野であるヘルスケア領域において、政府の成長戦略が掲げる新しい社会「Society5.0」の実現に向けた戦略分野の筆頭に「健康・医療・介護」が掲げられ、ICTを活用した医療サービス具体化への期待が高まってきております。

また、GEOソリューション事業分野において、国土交通省は、土木測量分野等の生産性を飛躍的に高める目的で「i-Construction」を推進し、やはりICTが戦略の中心に置かれておりますが、とくにUAV（小型無人航空機）に大きな役割を担わせる戦略となっております。

このような環境下で、当社の主力事業である「ヘルスケアソリューション事業」セグメントでは、前年度期初より注力してきた営業体制強化策の進捗により、PACS（医療画像保管・配信・表示システム）、ConnectioRIS（放射線部門情報システム）等の今期の売上は概ね計画に沿った進捗となっております。循環器分野での新規事業展開を視野に、ソフトウェア開発と保険適用認可を得た「不整脈検査用ウェアラブル心電計（duranta）」は、第2四半期より出荷を開始しております。

これらの結果、当第3四半期累計期間における当社の業績は、売上高942百万円（前年同期比15.3%増）、営業損失30百万円（前年同期は107百万円の損失）、経常損失46百万円（同121百万円の損失）、四半期純損失50百万円（同126百万円の損失）となりました。

セグメント別の概況は以下のとおりです。

ヘルスケアソリューション事業

ヘルスケアソリューション事業の当第3四半期累計期間は、売上高852百万円（前年同期比16.3%増）、営業利益101百万円（同930.1%増）となりました。

「医療画像システム商品」の価格競争は継続した加速傾向にありますが、前年度より取り組んでいたモダリティメーカーや、医療情報システムメーカーとの協業の成果が出始めたことで売上が伸張し、同時に取り組んできたシステム導入工程の効率化の効果も合わせ、大幅な収益改善が進みました。

また在宅医療・介護福祉分野の新規事業として出発した「duranta（テレメトリー式心電送信機）」事業は、「不整脈検査用ウェアラブル心電計」としての事業領域拡大を展望し、不整脈の解析ソフトを組み込んだ開発を進め、平成30年1月から出荷を開始しました。在宅医療・介護福祉分野から循環器医療分野へと展開領域が拡大したことで、昨年実績を上回る進捗で推移しております。

GEOソリューション事業

GEOソリューション事業の当第3四半期累計期間は、売上高90百万円（前年同期比6.8%増）、営業利益8百万円（同56.8%減）となりました。

Fieldspec4（携帯型分光放射計）の販売が好調な推移を維持するいっぽう、国内のUAV運用の増加を背景にシェア拡大を目的として販売価格の戦略的下方改定と販売促進活動の強化を進めているPix4Dmapper（UAV撮影画像等の自動オルソモザイク&3D処理ソフトウェア）は、販売量では前期より着実に成長しつつも、前年同期に比較し販売管理費用が先行することにより営業利益率が低下する状況となっております。

また、ウェブ・サービス事業を運営していた、連結子会社である株式会社イメージワンゼロットと、株式会社エンパワープレミアムが合併（株式会社エンパワープレミアムを存続会社とする吸収合併。）し、平成30年5月30日付で、株式会社イメージワンゼロットは消滅したため、当社に連結子会社が存在しなくなりました。なお、株式会社エンパワープレミアムは、当社の連結子会社ではなく関連会社になります。これに伴い当第3四半期会計期間よ

りウェブ・サービス事業が無くなり、非連結決算に移行しております。

詳細につきましては、(企業結合等関係)をご参照ください。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は、1,177百万円(前事業年度末比12.8%増)となりました。これは、現金及び預金が532百万円増加し、受取手形及び売掛金が405百万円減少したこと等によります。

固定資産は、550百万円(同60.4%増)となりました。これは、投資その他の資産が197百万円増加したこと等によります。

この結果、当第3四半期会計期間末における総資産は、1,727百万円(同24.6%増)となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は、212百万円(前事業年度末比43.0%減)となりました。これは、買掛金が156百万円減少したこと等によります。

固定負債は、141百万円(同19.1%減)となりました。これは、長期借入金が26百万円減少したこと等によります。

この結果、当第3四半期会計期間末における負債合計は、354百万円(同35.3%減)となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、1,373百万円(前事業年度末比63.8%増)となりました。これは、資本金が291百万円、資本剰余金が291百万円増加し、利益剰余金が50百万円減少したこと等によります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年9月期(通期)の業績予想につきましては、平成30年6月8日付「非連結決算への移行及び平成30年9月期業績予想に関するお知らせ」にて公表いたしました業績予想に変更はございません。

なお、業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	377,715	910,637
受取手形及び売掛金	631,816	226,623
商品	9,032	10,638
仕掛品	13,136	12,019
貯蔵品	157	325
その他	17,700	23,241
貸倒引当金	△5,993	△5,852
流動資産合計	1,043,565	1,177,632
固定資産		
有形固定資産	35,767	38,965
無形固定資産		
ソフトウェア	36,007	27,569
その他	24,981	40,187
無形固定資産合計	60,988	67,756
投資その他の資産		
関係会社株式	204,000	399,000
その他	42,240	44,337
投資その他の資産合計	246,240	443,337
固定資産合計	342,997	550,060
資産合計	1,386,562	1,727,693
負債の部		
流動負債		
買掛金	224,364	68,325
1年内償還予定の社債	14,200	14,800
1年内返済予定の長期借入金	56,419	36,462
未払法人税等	8,041	8,941
製品保証引当金	8,450	9,922
その他	61,170	74,102
流動負債合計	372,646	212,552
固定負債		
社債	7,700	-
長期借入金	164,065	137,983
退職給付引当金	2,665	3,330
その他	936	498
固定負債合計	175,367	141,812
負債合計	548,013	354,364

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期会計期間 (平成30年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,293,816	1,585,716
資本剰余金	436,814	728,714
利益剰余金	△781,834	△832,832
自己株式	△111,949	△111,949
株主資本合計	836,847	1,369,648
新株予約権	1,701	3,679
純資産合計	838,548	1,373,328
負債純資産合計	1,386,562	1,727,693

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
売上高	942,854
売上原価	633,074
売上総利益	309,780
販売費及び一般管理費	339,826
営業損失(△)	△30,046
営業外収益	
受取利息	30
受取配当金	150
為替差益	671
その他	496
営業外収益合計	1,348
営業外費用	
支払利息	2,390
社債利息	101
支払手数料	10,208
新株予約権発行費	5,504
営業外費用合計	18,205
経常損失(△)	△46,903
税引前四半期純損失(△)	△46,903
法人税、住民税及び事業税	4,094
法人税等合計	4,094
四半期純損失(△)	△50,997

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間において、新株予約権の行使により資本金が291,899千円、資本剰余金が291,899千円増加しております。

この結果、当第3四半期会計期間末において、資本金が1,585,716千円、資本剰余金が728,714千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 当第3四半期累計期間(自平成29年10月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書計上額 (注) 2
	ヘルスケアソ リューション 事業	GEOソリュ ーション事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	852,401	90,453	942,854	-	942,854
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	852,401	90,453	942,854	-	942,854
セグメント利益又は損失(△)	101,366	8,888	110,254	△140,300	△30,046

(注) 1 調整額に記載されているセグメント利益又は損失には各報告セグメントに配分していない全社費用140,300千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3 当社は、当第3四半期会計期間において、ウェブ・サービス事業を営む連結子会社の株式会社イメージワン ゼロットが他社による吸収合併により、報告セグメントであるウェブ・サービス事業が存在しなくなったため、「ウェブ・サービス事業」の区分は記載しておりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

子会社の企業結合

(1) 子会社が行った企業結合の概要

① 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合企業の名称：株式会社エンパワープレミアム

事業の内容：自由診療歯科分野を中心とした医療、美容、健康、リラクゼーション等に係る予約・検索サイト事業

被結合企業の名称：株式会社イメージワン ゼロット(子会社)

事業の内容：自由診療医科分野の予約・検索サイト事業

② 企業結合を行った主な理由

株式会社イメージワン ゼロットは、創業以来、美容整形分野等の自由診療医科分野の予約・検索サイト事業を行ってきました。株式会社エンパワープレミアムは、インプラントや矯正などの歯科分野における自由診療歯科分野を中心とした医療、美容、健康、リラクゼーション等に係る予約・検索サイト事業を展開してきました。両社とも「自由診療」が共通のターゲットであり、両社の事業領域を統合し、人材資源を中心に様々な機能を合体できることから、ポータルサイトなどメディア対応力と営業体制の増強が実現し、事業加速と事業規模の拡大を目指すとの合意に至ったものであります。

③ 企業結合日

平成30年5月30日

④ 法的形式を含む取引の概要

株式会社エンパワープレミアムを吸収合併存続会社、株式会社イメージワン ゼロットを吸収合併消滅会社とする吸収合併。これにより、当社に連結子会社が存在しなくなり、合併後の株式会社エンパワープレミアムは当社の関連会社(持分比率39.7%)となりました。

(2) 実施した会計処理の概要

「事業分離等に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、会計処理を行っております。

(3) 子会社が含まれていた報告セグメントの名称

ウェブ・サービス事業

(4) 親会社が交換損益を認識した子会社の企業結合において、当該子会社の株式を関連会社株式として保有する以外に継続的関与がある場合には、当該継続的関与の概要

該当事項はありません。